

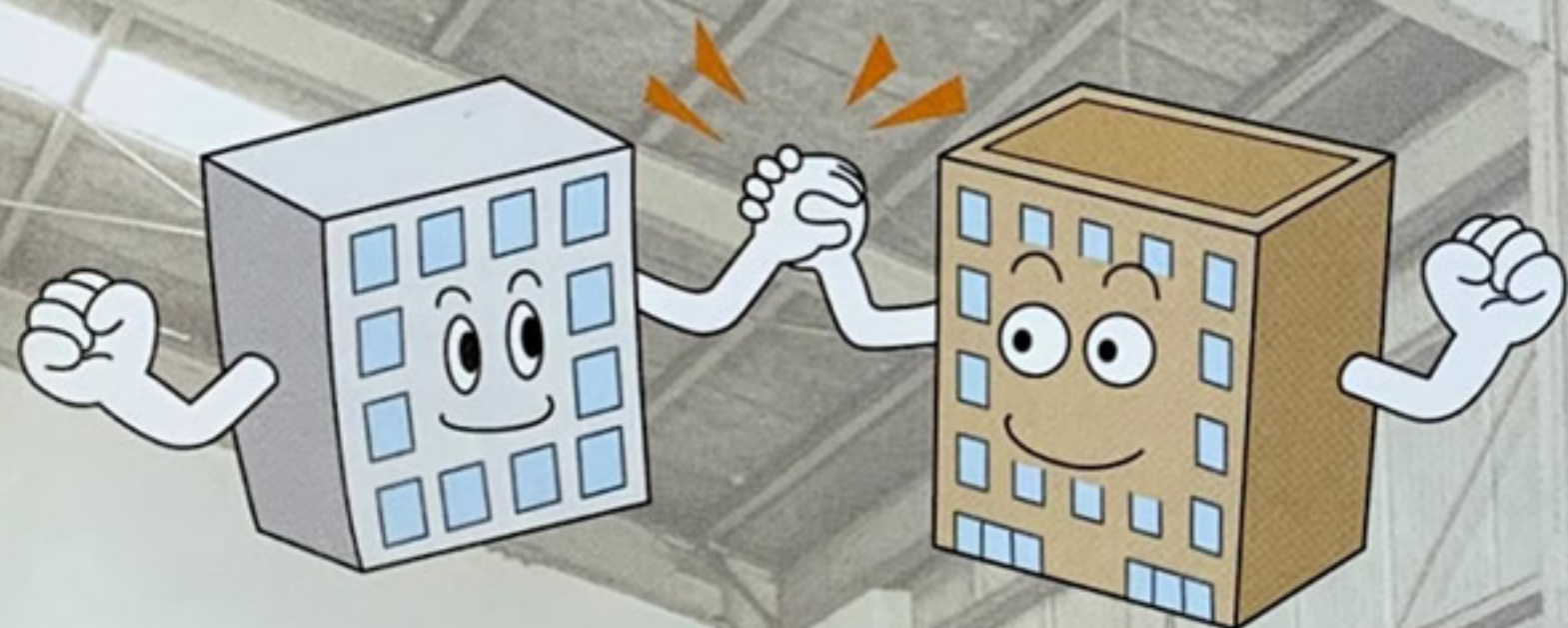
令和2年11月15日発行（隔月1回発行）
TECHNO PLAZA 第292号
発行／（公財）大田区産業振興協会
〒144-0035 大田区南蒲田 1-20-20
TEL 03-3733-6476
FAX 03-3733-6459
E-mail technoplaza@pio-ota.jp
URL <https://www.pio-ota.jp>

11

Nov. 2020

大田区を元気にする産業情報誌

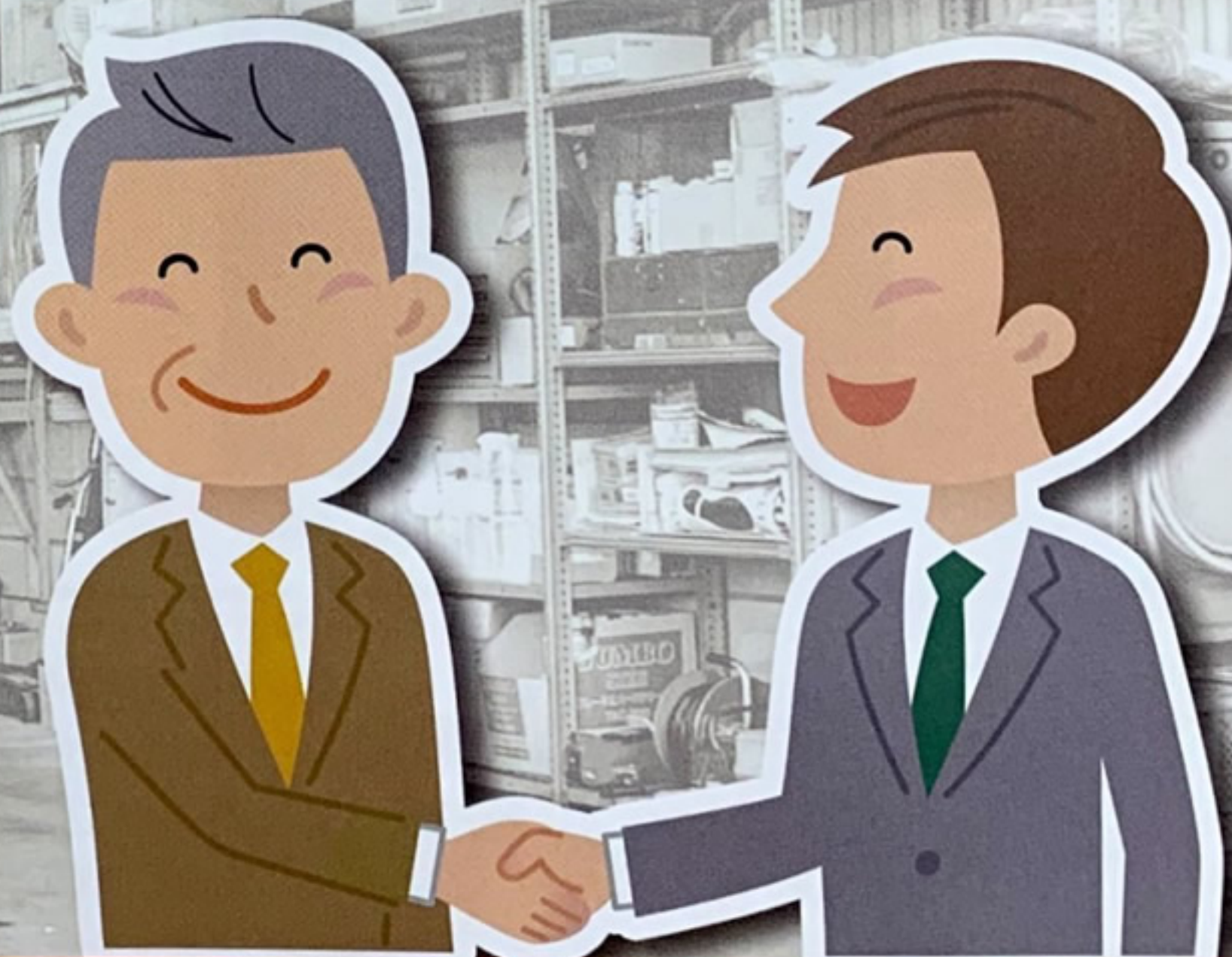
テクノプラザ



企業間連携

区内企業の挑戦

区内企業同士が連携し、一つの製品を開発する事例が増えています。背景として、企画や設計ができる企業が増えてきたこと、コロナをきっかけに、新製品の開発に取り組む企業が増えたことが挙げられます。大田区の伝統的な「仲間まわし」に加え、異業種や海外といった「外」との企業間連携に挑戦する区内企業の事例を紹介します。



② 株式会社カラース&有限会社関鉄工所

現場のアイデアをカタチに

一般の道路は水はけのために両端を低くする「水勾配」がついています。このために、車いすを押して進むとすると低い方へ曲がってしまい、介護者はまっすぐ進むのに大変な苦勞をします。この課題を解決するため、前輪を固定した「直進軽快車いす」を共同開発したのが、金属加工の関鉄工所と介護サービスのカラース。曲がるときには前輪を浮かせばいい、そのために車軸の重心位置をずらすという逆転の発想は、「互いに門外漢という『外』同士の連携だからこそ生まれました。」



直進軽快車いす

(株)カラースは、在宅介護サービスを中心に福祉用具のレンタルや小売販売を行っており、利用者や地域のニーズに合わせたサービスの開発に積極的に取り組んでいます。そのため、社内では定期的にアイデアを募って会議を開いています。しかし、アイデアを具体的な形にするすべがありません。(株)カラース代表の田尻氏は他業種や地域とのつながり作りを意識して活動していました。一方、関鉄工所の関社長も、「自分の会社だけでは製品は完成しない。周りの工場から部品を調達して組み立てるだけでなく、ネットワークを広げることで扱う製品の幅も広がる」と外との連携を意識していました。

そんな両者は4年前、東京商工会議所大田支部の会合で出会いました。

「関さんが何でも作れますと言うので」、「そんなこと言ったかなあ」と笑う二人。打ち合わせはすぐに始まり、お互いに製品のアイデアを出し合い、ノートにぎっしり書き込んでいきました。そのなかから、ニーズの高さや実現の可能性を考えて車椅子の開発にたどり着いたと言います。



アイデアをまとめたノートを見返す田尻代表(左)と関社長(右)

ニーズに応えた製品開発へ

介護の現場にいる田尻氏からは、「お年寄りの中には、ボタンを押してからレバーを引く、といった2つの作業をこなすのが難しい方もいる」「バッテリーの充電など誰でも容易にできるとするのは間違い」など、厳しい指摘が続きました。関氏は「工場の中で使う台車なら作ることはできる。しかし、車椅子は人が利用するもので、田尻氏から現場のことを聞きながら試作を進めていった」と言います。一方、田尻氏も工業分野は未知の領域。関氏が説明する専門用語が分からず、「理解しあうのに時間をかけた。」と話します。

こうして、改良に改良を重ねた車椅子の試作機は最終段階に入っています。今年の2月に特許を取得し、現在、最終形態の6号機を作っています。認可を取得後、今年度中に市場に出していく考えです。



工業のネットワークをつないでくれるハブ役を務める方がいたことも連携が進んだ要因と考えられます。

企業の取り巻く環境が厳しい中、企業の研究開発は活発化しており、農業など、企業の技術によって解決が見込まれる成長分野とも言われています。新製品開発や、新分野への参入において、企業間連携はその入り口となり、後押しともなります。田尻氏は「今回の経験を得て、様々なノウハウを蓄積することができた。区内の町工場では何でも作れる。これからも利用者の生活ニーズに合ったものを開発していきたい」と今後の意気込みを語ります。